

# 文化スポーツ課とスポーツ推進委員協議会役員の懇談会

平成27年12月25日  
宮崎市会議棟  
PM 3:00～

## 議 題

### 1. 宮崎市スポーツ推進委員協議会としての活動

※従来は、「地区行事の協力」との期待（説明）が主であった

- ① 地域を中心にした生涯スポーツの推進による絆づくり・健康づくりを目指す
- ② 推進委員としては、組織の改革を行う
  - ・ 推薦の在り方を見直し、やる気のある推進委員を集める
  - ・ 推進委員の活動の目的や取組、方向性を明確にする
  - ・ 今までのお手伝いから脱皮して、無くては困る組織に
  - ・ 公募枠を10名位に増やしたい

☆ 推進委員が、健康長寿日本一を目指す中心的存在として活動！

### 2. 地区体育会の現状と今後について

- ① 地区体育会の予算減少 別紙参照
- ② 地区体育会役員のなり手がいない
- ③ 地区対抗の予選会の参加チームが大幅に減少している
- ④ スポーツ推進委員の推薦の問題
  - ・ 自治会体育部の崩壊・・・スポーツ推進委員の予備軍がいない



☆ 総合型地域スポーツクラブ的活動への取組（受益者負担）・・・収入確保  
・ 市の方針として取り組めないでしょうか？

【宮崎市推進委員協議会と体育会での総合型クラブへの取組】 別紙参照  
**国のスポーツ基本計画 ⇒ 地域スポーツは、総合型地域スポーツクラブへ**

### 3. 総合型地域スポーツクラブへの取り組み

※宮崎市としての方針と支援策

- ① クラブが自立するための具体的支援策の他市例 別紙参照
- ② 現状のままでは、市内の半分のクラブは存続できないのでは？
  - ・ 医療費削減等の対策として支援できないでしょうか？
- ③ 東大宮スポーツクラブのクラブハウス建替え
  - ・ 12年経過して雨漏りと手狭のため建替え許可（目的外使用）のお願い

### 4. その他

## 各地区体育会予算一覧

種目	平成26年度体育会予算		各世帯負担金	平成27年度 交付予定額 (千円)	増減 (千円)	平成15年度	H26-H15
	予算額(円)	繰越金(円)				予算(千円)	差額(千円)
江 平	180,935	60,935	無	120	0		
潮 見	233,865	33,860	無	120	0	740	-506
檜	253,550	3,550	無	120	0		
<b>東大宮</b>	<b>278,176</b>	<b>8,162</b>	<b>無</b>	<b>120</b>	<b>0</b>	740	<b>-462</b>
中 央	310,983	58,343	地区4,000円	100	▲ 20	280	31
小 戸	343,528	118,508	世帯50円	100	▲ 20	380	-36
木 花	412,850	1,850	無	100	▲ 20	1,950	-1,537
高 岡	539,078	139,028	有(自治公民館連協100,000円)	100	▲ 20		
生目台	667,400	234,273	世帯100円	120	0		
青 島	668,535	248,485	無	100	▲ 20	250	419
大 宮	756,533	88,623	世帯100円 均等割2,000円	120	0	770	-13
佐土原	783,675	161,175	無	80	▲ 40		
大 淀	800,000	45,971	世帯150円	100	▲ 20	960	-160
倉 岡	823,445	224,241	世帯650円	120	0	730	93
瓜生野	862,579	82,379	世帯600円	120	0	1,850	-987
中央西	992,684	510,284	世帯100円	120	0	1,560	-567
住 吉	1,100,000	114,395	世帯170円	120	0	910	200
生 目	1,271,348	378,368	世帯300円	100	▲ 20	2,200	-929
大 塚	1,587,795	67,795	連合自治会より1,100,000円	120	0	1,400	188
赤 江	2,001,200	521,247	世帯100円	100	▲ 20	1,290	711
田 野	2,292,000	381,019	無	100	▲ 20		
清 武							
				2300	▲ 220		-3,556

※各地区体育会の予算額には負担金や宮崎市の補助金以外にイベント等での参加費収入も含まれる。

市長就任後、初めての定例市議会でございますので、私の市政運営についての所信の一端を述べさせていただき、議員各位をはじめ、市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと思います。

そのようなまちづくりを行うために、私は「市民が主役の市民のための政治の実現」を念頭に、3つの基本的な姿勢により、市政運営に取り組んでまいります。

第一は、「株式会社宮崎市役所づくり」であります。

私は、市役所は会社であり、市政を担っていくためには、会社を運営する感覚がなければならぬと考えております。

市民は、税金を納めてくださる株主であるとともに、サービスの提供を受けるお客様でもあります。会社は、株主の利益のために、また、お客様により良いサービスを提供するためにあるのです。

「市役所は市民の役に立つ所」、「役人は市民の役に立つ人」でなければなりません。これが、私が訴えてきた、不断の行財政改革を行い、「市民目線」の行政運営を行う「株式会社宮崎市役所」の実現であります。

第二は、「きずな社会づくり」であります。

近年の地域社会において、人と人とのふれあいやつながりが、核家族化の進行とともに希薄になってきており、特に都市部ではその傾向が顕著であります。私は、安心して生活できる住み良い社会を実現するには、住民が自分の地域の良さを知り、「向こう三軒両隣」の精神で、住民がお互いに日ごろからふれあいやつながりを持って、助け合うことが必要であると思っております。

そのためにも、「家族のきずな」そして、「地域のきずな」といった人と人とのふれあいやつながりのある「きずな社会」ができるよう、取り組んでまいります。

《フリートーク》 ※意見抜粋と回答

・小学校の区割り⇒非常に難しい問題だが、地域の意見を集約し問題点を整理し検討していきたい。

市長からの回答



市長は、○避難訓練の方法（班単位等の小さな単位での避難訓練の必要性）○災害情報取得の方法（ケーブルテレビdボタン、コミュニティFM）、○避難所確保（ビルオーナーに避難ビル指定を進めていく）○ネットワーク、コミュニティの重要性（向こう三軒両隣の精神で人と人のつながりを大切にすれば、自分の命や他人の命も守れるのではないか）そして最後に、「安心安全」ということを一番大事にし、40万人のスクラムを組んでまちづくりしていきたいと話されました。

## 特集

総合型地域スポーツクラブと  
コミュニティ

いつでも、どこでも、誰もが、日常の中で継続的にスポーツを行うことができる「総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型クラブ)」。地域住民の運営によるスポーツを通じた多世代交流は、総合型クラブの最も大きな特徴の一つと言えます。

文部省(現:文部科学省)が1995年に総合型クラブの育成事業をスタートし、20年の歳月が流れました。近年では「財源確保」や「指導者確保」等、運営に課題を持つ総合型クラブが多い現状です。しかし、総合型クラブが地域に存在することにより、多くの人々がスポーツによるさまざまな恩恵を受けています。

今回は、地域社会論等を専門としている茨城大学の長谷川幸介先生より、さまざまな課題が挙げられている総合型クラブの“意義”や“可能性”を、現代社会の“地域コミュニティ”の実情と絡めて、お話いただきました。(以下はインタビューをまとめたものです)

## 長谷川 幸介 (はせがわ・こうすけ)

茨城大学社会連携センター准教授、1950年生まれ、1975年茨城大学卒業。専門分野は教育法学、生涯学習論、地域社会論。「学校と地域の教育力」、「子どもの発達と地域の教育力」等をテーマに研究し、子どもたちの育成、地域づくり等について全国各地からの要請を受けて熱心に講演活動も行っている。また、「生涯学習とまちづくり」「今を生きる人間学」「教育法コンメンタール」など多くの著書がある。



## ▶▶▶▶「4つの縁(えにし)」が人をつなぐ

## ●みんなの幸せを育む「4つの縁」とは？

人は未熟な哺乳類として地球上に生まれました。だから、この未熟さを克服するために「幸せ装置=社会」を作ることになりました。そして、この社会は人と人のつながりだけでできおり、そのつながりを「縁(えにし)」と言います。「縁」は大きく分けて4つあります。

## ①「血縁」…家族のつながり

家族はお互いに支え合うという仕組みで作られた組織です。しかし、昔は3～4世代で家族を作っていた形が、この50～60年の間に核家族化が進み、その縁が徐々に弱くなってきています。

## ②「地縁」…地域の人たちとのつながり

薄れてきた「血縁」に代わる一つの「縁」として、地域の人たちとつながる「地縁」があります。ただし、これも大きな問題を抱えています。

今、地域には4種類の人があります。昔から住んでいる「土着の人」。ほかから移り住んで来た「定着の人」。社宅やアパートに住んでいていずれ町を出て行く「漂泊の人」。そして、海外から来た「異国の人」です。それぞれ違う価値観を持った人たちが一つになるのは大変な作業ですから、その時にルールが必要になってきます。そのルールを作るのに最適なのがスポーツで、「人をつなぎ」「違いを認め合っていく」作業に大変適しています。

### ③「友縁」…友達や同じ趣味・嗜好を持った人とのつながり

総合型クラブの人たちは、スポーツを通じてネットワークを作る、同じ趣味・嗜好を持った人たちです。一般的には同好会、サークルなどありますが、総合型クラブは同じ地域で生活する人たちが集まっています。つまり、「友縁」という同じスポーツをやっている仲間でありながら、また一方で地域と関わる人たちであり、一番重要な「縁」となります。



### ④「職縁」…仕事を通じたつながり

職場や仕事を通じてコミュニティを形成している人たちのつながりが「職縁」です。

一般的にサラリーマンはどんなに頑張っても65歳で定年です。会社に勤めている間は友達も多いですし、車の運転ができれば遠くの友達にも会いに行くことができます。しかし、高齢になり車の運転ができなくなると、近所の人との付き合いだけになってしまいます。また、遠方の友達との縁も切れてしまいがちです。

## ●無縁社会から脱却してみんなが支え合う支援社会へ

「4つの縁」がつながっていることでこれまで人間はいろいろな課題を克服し、幸せな社会生活を送ってきました。しかし、時代とともに核家族化が進み、家族、地域、会社などにおける人とのきずなが薄れ、孤立する人が増えている日本の現代社会のこうした一側面を「無縁社会」と呼びます。

ではどうしたらいいのか。お互いを支えあう「支援社会」を作っていく必要があります。そして、この「支援社会」を作っていくために、総合型クラブが一つの大きな役目を担う存在となります。

ただ普通にスポーツをやっている人たちと、総合型クラブでスポーツをやっている人たちは違います。単純にスポーツをやっている人たちは、地域社会に触れていない人たちが多く、好きな人たちだけで集まって自分たちの幸せだけを作っています。今後はこの人たちにも「つながり」を広げる必要があります。その人たちを巻き込んでいく要となるのが、総合型クラブになるのです。

どうか総合型クラブを運営されている皆さんは、「自分たちはスポーツを通じて地域の人たちと協力して地域作りをしているのだ」と誇りを持ってください。

その誇りを胸に活動が続けることで社会的評価が高まり、より多くの地域住民をはじめ、多くの方々に「総合型クラブの活動は重要だ」と気づいてもらえるはずです。財政的に厳しいからといって、活動をやめてしまうには惜しい組織だと思います。

## ▶▶▶▶ 総合型クラブの“意義・可能性”とは？

### ●「健康は3つに分類できる」

私はスポーツと密接な関係にある健康を、「肉体の健康」、「精神の健康」、「縁の健康」と3つに分類しています。このうち、「縁の健康」について、お話ししましょう。

**「縁(えにし)の健康」。**これは、人と人がつながる健康のことを言います。

例えば、腕立て伏せが50回できる70代の男性がいるとします。その人が、離れ小島で「今日は腕立て伏せ、51回まで挑戦するぞ」と頑張ったとしても、誰もいない所では褒めてくれる人はいません。そんな人生は健康(幸せ)でしょうか？ 地域でみんなが集まってラジオ体操をやる時、「〇〇さん、元気？」と声を掛け合う仲間がいるから、幸せを感じられるのです。人と人のつながりの中で健康は生かされるということです。

### ●多くの地域住民と“つながろう”！

前述した「3つの健康」のすべてに応えられるのが総合型クラブです。特に「縁の健康」は一般のスポーツクラブにはない要素と言えます。今、総合型クラブは財政面等で逆境にあるかもしれません。しかし、逆に言えば、お金の縛られているクラブ運営をもう一回変えていくチャンスではないのでしょうか。

そこで、総合型クラブの皆さんにお聞きしたいと思います。本当に地域の人たちと関わっていますか？ 例えば茨城県で言うと、県民300万人のうち、約80万人が高齢者になっています。そういう高齢者(老人クラブなど)に声をかけたことがあるのでしょうか？ 子育て真っ最中のお母さんとのつながりはどうですか？ 子育てはストレスを背負います。そんなお母さんと子どもが簡単にできる軽スポーツを提示したことがありますか？

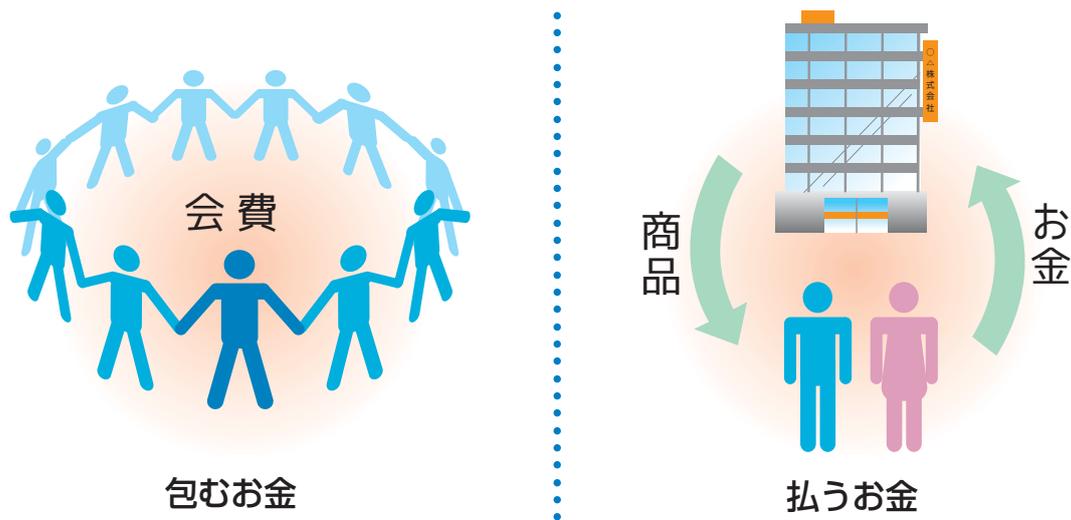
総合型クラブは健康で幸せな生活を送るために運営しているのですから、従来のスポーツの枠を超えて地域とつながる新しいスポーツの在り方を考えてほしいのです。総合型クラブの目の前には可能性がたくさん広がっています。それを見つけられるかどうかは、これからの皆さんの活動にかかっていると言っていいでしょう。

### ●お金には換算できない意義のある活動

総合型クラブが集めたお金はただのお金ではありません。例えば、300万円の会費、もしくは助成金が入ったとします。総合型クラブにとっては、この300万円は人と人がつながった実績になるのだと思ってください。民間企業のように金額で捉えるのではなく、人と人のつながりの実績を数字で表しているだけです。お金と見ると気が乗らなくても、人間同士の縁が作ったものだと思えば、自分たちがやっていることにすごく誇りが持てるはずです。もしお金の困っているなら、つながりを作ろうという思いで事業を考えればいいし、財政が厳しくなった時につながりの大切さが初めて見えると思います。だからチャンスなのです。総合型クラブには民間スポーツクラブにはない、地域住民が集まるメリットがあります。それを事業化するというはただのお金ではなく、人と人のつながりの実績だということを理解する必要があります。

また、文化人類学では「払うお金」と「包むお金」という2つの言葉があります。「払うお金」とは、物が右から左へ流れ、お金が左から右へ流れます。つまり売買です。一方、「包むお金」は友達同士、親戚、知り合いなどの間で動くお金です。例えば、結婚式のご祝儀がまさにそれで、お祝い金を払うとは言いません。「ご祝儀を包む」と言います。

それと同様に、総合型クラブの売り上げ(会費や助成金など)も「包むお金」です。そこをきちんと理解せずに、お金というと全部一緒くたに考えてしまいますが、私たちが思想とする総合型クラブが事業で得るお金は「包むお金」であり、人間同士のつながりを作っていくお金だと理解して戦略を作ることが大切です。



### ●幸せ作りのために総合型クラブがある

今回、私が一番言いたかったのは、「総合型クラブは何のためにやっているのか」ということです。お金がないから不幸(無理)だと思わず、「幸せ作りのために総合型クラブを運営しているのだ」ということを心に留めていただければと思います。

こうした「ツナガリ」や「キズナ」といった言葉が溢れていますが、これらの言葉の背景について考える機会は少ないように思います。そこで今回は、それらと近い言葉である「コミュニティ」という用語について解説します。コミュニティとは一般に「共同体」を意味しますが、この言葉をめぐっては重要な知見が豊富に蓄積されてきました。

まず、コミュニティ研究における偉人の考えを確認しましょう。その一人であるテンニーズ(1855-1936)は「①ゲマインシャフト」と「②ゲゼルシャフト」という人間関係の様相を表す言葉を提起しました。①ゲマインシャフトは、家族や友人、近隣のように、信頼や安心に満ちて、自然と形成される「温かいツナガリ」を意味します。一方、②ゲゼルシャフトは、企業や大都市での関係のように、一定の利害を起点とし、非人格的で機械的な「ドライなツナガリ」を示します(なお、①の方がコミュニティに該当します)。

『コミュニティ』という書物を記したマッキーヴァー(1882-1970)もテンニーズと似た発想を持っていました。マッキーヴァーは、**同じ空間内で暮らす人々が共通して持つ関心(共同関心)に基づき自然と作られるつながりをコミュニティと呼びました。そして、コミュニティを基盤とすることでさまざまなアソシエーション(特定の目的を有する機能集団)が誕生すると主張しました。このように、コミュニティ研究の先達たちはともに、利害とは無関係で、自然と協力し合う「温かいツナガリ」をコミュニティと呼んだのです。**

コミュニティの発想が日本で注目されたのは、60年代後半のことです。当時、高度経済成長によって個人主義化が進み、それに起因した地域のつながりの希薄化が大きく問題視されました。そこで、総理大臣の諮問機関が「コミュニティ～生活の場における人間性の回復～」という報告書を発表したことを皮切りに、各省庁が地域施設の建設や住民の組織化といった「コミュニティ施策」を実施しました。そこで目指されたのは、「地域性と各種の共通目標をもった、開放的でしかも構成員相互に信頼感のある集団」としてのコミュニティの形成でした。地域性や共通目標、信頼感といった言葉からは、このコミュニティの考え方に先人たちの発想が活かしていることがわかります。

これまでコミュニティの発想についてはさまざまな問題点が指摘されてきました。その一つは、「コミュニティは、実現するのが非常に困難なのにもかかわらず、”あったら良いな”という願望を含む理想像として示されることが多い」ということです。この指摘は、地域スポーツの現場にも当てはまる部分が多いように思います。あらゆる地域に「理想的なコミュニティ」、つまり、すべての地域住民が自然と協力するような「温かいツナガリ」がもともと存在するわけではないのです。しかも、実際に住民たちが「理想的なコミュニティ」の形成に向けて繋がりたければするほど、考え方の相違や利害関係、負担や義務等が際立つというリアルな側面も存在し、「気楽さ」が後景化することもあります。

とはいえ、悲観しすぎることは無用です。**地域スポーツクラブのような「今あるコミュニティ」の活性化は、地域生活を豊かにする可能性があることは、さまざまな研究者によって指摘されています。**ポイントは、「今あるコミュニティ」を少しでも地域住民に開かれたものとし、時間をかけ協力者の輪を広げながら、実現可能な温かいツナガリに満ちた地域を目指していくことだと思えます。

## 地域住民

クラブの運営への参画（クラブマネジャー、指導者、ボランティアスタッフなど）

地域住民の自主的・主体的な運営

「総合型」=3つの多様性  
多様目・多世代・多志向

会員として活動への参加

- 自分のやりたい種目に
- 複数の種目に

- 幼児から高齢者まで
- 親子で、家族で、仲間と

- 自分が楽しめるレベルで
- 自分の目的に合わせて

会費を支払う（受益者負担）

多様目  
多世代  
多志向

### 《クラブ設立の効果》

- 元気な高齢者が増えた
- 地域住民のスポーツ参加機会が増えた
- 地域住民間の交流が活性化した
- 世代を超えた交流が生まれた

等

- ・地域住民が主体的に地域のスポーツ環境を形成する「新しい公共」が実現
- ・運動不足の解消による過剰医療費の抑制に寄与
- ・学校の授業・部活動への支援を通じて、コミュニティスクールへの発展に寄与

## 総合型地域スポーツクラブ

—多種多様な事業の展開—

### 定期活動

- ・スポーツ教室、スクール
- ・サークル活動（文化的活動含む）等

### 不定期活動

- ・医師による健康相談
- ・指導者講習会
- ・スタッフ研修会 等

クラブ運営の要となる  
クラブマネジャー



会員の交流拠点となる  
クラブハウス

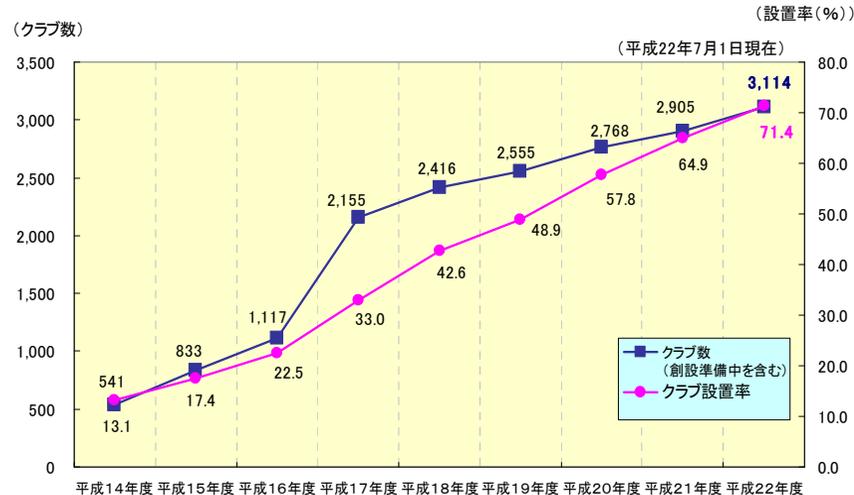


学校施設・廃校施設等を定期的・継続的な拠点として利用

### 連携・交流事業

- ・会員の世代間の交流を図る行事やイベント
- ・クラブ指導者の派遣による学校の授業・部活動への支援
- ・地域住民全体を対象としたイベント 等

総合型地域スポーツクラブ数の推移（H14～22）



# 隣県市の総合型地域スポーツクラブへの支援例

平成27年10月

## 熊本市の支援例

- ① 体育館の一室か、学校の空き部屋がクラブ事務局  
(目的外使用8カ所)
- ② 市内全クラブが学校運動施設夜間管理業務を受託している
  - ・ 1校当たり516,000円
  - ・ 最大8校管理しているクラブ有り
- ③ 市内を5区に分けて、大会等の補助有り
- ④ 毎年2月に、広報誌1ページ分のクラブ案内

## 大分市の支援例

- ① クラブ 設立後5年間100万円の支援、その後30万円の支援
- ② 26年度、総合型地域スポーツクラブ事業費 880万円
- ③ 毎年2月に、広報誌1ページ分のクラブ案内

## 鹿児島市の支援例

- ① 教室開催支援費として、各クラブへ215,000円助成
- ② 学校運動施設開放は、有料であるが、クラブは減免である

## 27年度地区対抗予選会参加状況

		ミニバレー		ビーチボール		駅伝	GG
		本大会	予選会	本大会	予選会	本大会	予選会
No.	地区	チーム数	チーム数	チーム数	チーム数	チーム数	参加人数
1	住吉	5	49	3	5		
2	東大宮	① 5	③ 22	① 7	① 16	② 4	① 160
3	大宮	5	19	3	4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     ↓                      大宮が                      昨年5                      チーム                 </div>	(予定)
4	檉	4	13	2	6		
5	潮見	2	10	2	0		
6	中央	3	0	4	0		
7	江平	5	11	2	5		
8	中央西	5	8	3	4		
9	小戸	3	9	1	6		
10	瓜生野	5	37	2	0		
11	倉岡	4	17	3	8		
12	大塚	5	11	1	0		
13	生日	5	21	3	6		
14	生日台	5	11	5	6		
15	大淀	4	14	0	0		
16	赤江	5	13	0	0		
17	木花	2	0	0	0		
18	青島	1	0	0	0		
19	佐土原		0	4	4		
20	田野	1	0	2	0		
21	高岡	3	6	0	0		
22	清武		0	0	0		
	合計	77	271	47	70		